

平成 26 年度 第 1 回 麻布を語る会 麻布地区版基本計画策定分科会

議 事 要 旨

開催日時	平成 26 年 10 月 28 日（火）18:30～21:00
開催場所	港区麻布地区総合支所 2 階 第 3 会議室
出席委員 (敬称略)	【分科会メンバー：20 名】 井上（座長）、広瀬（副座長）、相田、今別府、尾川、小畑、河又、清澤、CAMPBELL、小坂、佐伯、関、関口、仙納、高柳、原、藤本、山下、唯是、横島
事務局	【麻布地区総合支所／事務局：4 名】 山本（協働推進課長）、寺島（地区政策担当係長）、利根川・榊原（協働推進係）
概 要	1 開 会 2 港区基本計画 麻布地区版計画書（素案）について ・素案（概要版）及び素案、提言の反映状況について 3 その他 ・今後の予定
配付資料	資料 1 港区基本計画 麻布地区版計画書（素案）【概要版】 資料 2 港区基本計画 麻布地区版計画書（素案） 【参考資料】 1 港区基本計画 麻布地区版計画書（素案）区民参画組織提言の反映状況 2 「港区基本計画 麻布地区版計画書」策定に向けた今後の予定
座 長 事務局	【会議経過】 1 開 会 【挨拶】 【資料確認・本日の進め方を説明】
事務局	2 港区基本計画 麻布地区版計画書(素案)について 港区基本計画（分野別）との麻布地区版計画書の概要及び素案へのパブリックコメントは、11 月 11 日からになる。 資料 1 「港区基本計画・麻布地区版計画書（素案）の概要」【説明の要旨】 1 麻布地区の将来像 2 麻布地区の特性は、地形、交通網、歴史・文化 3 策定にあたり 3 つの重点的に取り組む課題は、新たな地区版計画の策定にあたって、「安全安心」「地域コミュニティを基盤とした交流」「麻布の特色である国際化」この 3 点を特に優先的に取り組むべき課題と設定 4 地域事業は、11 事業を計画、新規で実施する事業は、3 事業 <参 考>は、区民参画組織からの提言数及び計画計上事業数。

資料2「港区基本計画・麻布地区版計画書(素案)」【説明の要旨】

第1章 総論

「1 地区版計画書の目的と性格」

港区基本計画は全区的な「分野別計画」と総合支所が策定する「地区版計画書」で構成。

「3 地区版計画策定の基本的考え方」

(1) 参画と協働による計画の推進 (2) 地区を取り巻く環境変化への対応
(3) 安全・安心に向けた取組の推進 (4) 人口増加や財政収支の見通しを踏まえた事業創出の4つが策定の基本的な考え方。

「4 計画の期間」、「5 計画における「地域事業」の予算」

計画期間は、平成27年度からの6年間、前期3年目の平成29年度に見直し。

地域事業は11事業、3年間の予算金額は、約1億2千6百万円

第2章 麻布地区の特性

「1 地理的特徴」

(1) 麻布地区の位置と面積、(2) 地形的特徴、(3) 交通、(4) 歴史・文化的特色。

「2 施設等位置図」

主な公共施設、公園等の整備状況、避難所・避難場所。

「3 人口」

(1) 人口の想定、(2) 昼夜間人口、計画最終年度の平成32年度(平成33年1月1日)には6万2千836人に増えると想定。

第3章 麻布地区版計画の内容

「1 麻布地区の将来像」は、「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」。

「2 地区版計画書策定のキャッチフレーズ」は、「地域そして世界へつながる“AZABU”をめざして」を新たに作成。今回の地区版計画の策定にあたり、麻布地区が取り組む3つの重点的な課題と魅力を区内はもとより世界に向けて発信し、世界へつながる麻布をめざしていく。

「3 策定にあたっての3つの分野で重点的に取り組む課題」は、麻布地区の特徴、区民意識調査結果、麻布地区区民参画組織からの提言などを踏まえて作成。1つ目は「安全・安心を地域とともに育むまちづくり」、具体化する地域事業は、六本木安全安心プロジェクト、防災ネットワーク構築事業。その他、地域の防災力の向上に向けた取組、みなとタバコルールの推進に向けた取組も強化。2つ目は、「様々な地域コミュニティの活性化」、具体化する地域事業は、みんなでエコっとプロジェクト、麻布で“地域のちから”活性化事業、麻布フェスタ、麻布と山形県舟形町との交流コミュニティ形成、地域サロン(ちょこっと立ち寄りカフェ)、おもちゃライブラリー。その他、地域情報の発信力の強化、観光情報等の充実に向けた取組を強化。3つ目は、「文化をはじめとした地域資源の活用による国際化の推進」、具体化する地

域事業は、麻布国際ふれあい事業、麻布未来写真館、あざぶ達人倶楽部。その他、旧町名の活用に向けた取組を強化。

【地域事業の概要】

「Ⅰ ひとにやさしい都市空間のまち」

「六本木安全安心プロジェクト」の事業は、現計画からの拡充事業で、多様な主体と協働により制定した地域独自ルール「六本木安全安心憲章」の更なる周知・浸透のため、PR・客引き防止キャンペーン、認証制度の推進等の体感治安の改善につながる取組を実施。

「防災ネットワーク構築事業」は、現計画からの継続事業で、地区内事業者が災害の発生に備え、行政、事業者間、防災住民組織等とのネットワークづくりを支援。

「みんなでエコっとプロジェクト」事業は、新規で実施する取組で、地域の子どもたちに、地域に溢れる自然環境に触れる機会の創出、企業・関係団体等と連携した体験学習、そして、現行地域事業の「飯倉片町地下横断歩道小学生児童絵画展示事業」の絵画のテーマを環境に変更して実施。

「Ⅱ 誰もが愛情を感じるまち」

「麻布未来写真館」事業は、これまでの区民参画によるワークショップ、昔の写真の収集、パネル展示に加え、Web 上での情報発信の取組を拡充実施。

「麻布国際ふれあい事業」は、今までの地域パトロールなどへの外国人の参加、地域情報紙の外国語訳の充実、総合防災訓練への外国人の参加、麻布地区内 50 か所の大使館や企業・関係団体等と連携した交流機会を増やす取組を実施。

「麻布フェスタ」事業は、現行「麻布アートフェスタ」を拡充し、区民同士が地域との関わりを持つきっかけの創出、事業運営への参加を促す取組、有栖川宮記念公園を活用したワークショップイベント、芸術や文化資源を活用した商店街振興組合との連携イベントを実施。

「麻布で“地域のちから”活性化事業」は、新規の地域事業、地域コミュニティの活性化や将来の担い手となる人材の育成と育成した人材によるイベントの実施。今回廃止する「協働提案制度事業」での事業手法や「麻布の絆活性化事業」での将来を支える小学生とその保護者を対象とした事業の進め方を取り入れる。

「麻布と山形県舟形町との交流コミュニティ形成」は新規に実施する事業で、麻布と山形県舟形町とサマーツアー等の往訪・体験事業、地域のまつりなどの場を活かした交流イベントを区民と協働して企画・実施。

「Ⅲ 生活者の目線にたったまち」

「地域サロン（ちょこっと立ち寄りカフェ）」事業は、現計画からの拡充事業で、高齢者が気軽に集い学べる地域サロンの開催場所を 1 か所増やし、ボランティアの養成も引き続き実施。

「おもちゃライブラリー」事業は、現計画からの継続事業で、子育て支援事業の一環として、乳幼児を対象とした良質なおもちゃの貸出事業を実施。

「あざぶ達人倶楽部」事業は、現計画からの拡充事業で、麻布地区の魅力を発信していく人材を発掘・養成するとともに、自主的な活動を展開できるように支援。

現行地域事業「麻布防災案内事業」は、防災案内掲示板を地区内公園 12 箇所に設置、防災案内マップを小・中学校、区民センター 9 箇所に配備し、平成 27 年度以降は維持管理のみのため地域事業としては廃止。

「IV 実現をめざして」

本計画書に計上する様々な事業を着実に推進し、地区の将来像の実現に向けて取り組む。

「参考資料」区民参画組織提言の反映状況について【説明の要旨】

計画書（素案）の 80 頁以降に 40 の提言の反映状況を掲載、具体的な事業提言の中には、残念ながらご希望に添えず反映できないものもある。

提言 1 「区有地の有効活用が必要」

計画書（素案）71 頁の「区有地の有効活用」事業で対応するとともに、多様な手法を視野に入れた検討も進める。

提言 2 「空き地・空き家の適正な管理を促すことが必要」

計画書（素案）32 頁「あき地等の適正な管理」事業で、空き地、空き家の適正な管理を促していく。

提言 3 「再開発に区民意見を反映させる仕組みが必要」

計画書（素案）33 頁「港区まちづくり条例」に基づく仕組みの活用」事業で、区民意見を反映できる仕組みを構築。

提言 4 「コミュニティバスのルートや運行の検討に関して、区民意見を取り入れる仕組みが必要」

計画書（素案）35 頁「コミュニティバスの運行」事業で、利用満足度調査等により区民の意見を取り入れ、サービスの改善に取り組む。

提言 5 「歩行者、自転車、自動車を分離させることが必要」

計画書（素案）34 頁「歩道の整備」「歩車共存道路の整備」「自転車走行空間整備の推進」事業で、歩行者・自転車・自動車を分離した道路空間の創出を図る。

提言 6 「安全な歩行・通行空間を確保することが必要」

計画書（素案）34 頁「歩道の整備」「歩車共存道路の整備」「自転車走行空間整備の推進」事業で、自転車マナーは、36 頁「交通安全意識の高揚」事業で対応していく。

提言 7 「危険な駐停車や通り抜けを無くすためのルールづくりが必要」

計画書（素案）36 頁「駐車場の利用促進」事業において違法駐車対策を推進。

提言 8 「放置自転車を無くす取組が必要」

	<p>計画書（素案）36 号「自転車等駐車場の整備」事業で、平成 27 年度中に麻布十番駅、広尾駅、平成 29 年度中に六本木駅に自転車等駐車場を整備。また、放置自転車は、区民へのリサイクルや発展途上国への供与を行い、放置自転車の有効活用を図る。</p> <p>提言 9 「区民意見を取り入れた防災対策を行うことが必要」</p> <p>計画書（素案）38 号「麻布地区における地域の防災力の向上」事業で、地域住民の視点を反映した防災対策を推進。また、外国人含めた地域住民への防災教育、防災知識の普及啓発を図っていく。</p> <p>提言 10 「防災情報の内容の充実及び提供手段の充実が必要」</p> <p>計画書（素案）39 号「日常的な防災情報の周知」と 40 号「災害時における情報発信・情報伝達手段の強化」事業で、区民に対する多様な情報伝達手段の確保とデジタルサイネージを活用した情報発信の仕組みの構築に努めていく。</p> <p>提言 11 「災害時のペット対策について検討・周知することが必要」</p> <p>計画書（素案）39 号「日常的な防災情報の周知」事業で、防災訓練実施時や支所のロビー等で災害時に役立つ情報の提供を行う。</p> <p>提言 12 「体感治安を向上させる対策が必要」</p> <p>計画書（素案）37 号「麻布地区における安全・安心に向けた取組の強化」事業で、区民、地域団体、事業者、関係機関との連携による生活安全環境の改善に向けた取組を推進。</p> <p>提言 13 「再開発における緑化に関するルールづくりが必要」</p> <p>提言 14 「緑化や良好な景観形成の推進が必要」</p> <p>計画書（素案）42 号「緑化計画書制度による緑化の推進」事業では、港区みどりを守る条例において緑化基準を定めていることから、敷地面積 250 m²以上の建築計画に対して、緑化を義務付ける港区独自の緑化計画書制度の充実を図っていく。また、計画書（素案）42 号「民間建築物の緑化などの誘導」事業で、開発事業者に緑化等の指導・誘導を強化していく。</p> <p>提言 15 「公園等の有効活用、維持管理水準の改善、簡易な改修が必要」</p> <p>計画書（素案）41 号「公園の整備」事業、42 号「快適な公衆・公園トイレの整備」事業で、誰もが安全で快適に利用できる環境整備を推進。</p> <p>提言 16 「公園利用に関して抜本的な対策が必要」</p> <p>計画書（素案）41 号、「公園の整備」事業、44 号「たばこルールの推進」事業で、特に公園内の喫煙については、利用者に「みなとタバコルール」の徹底化を図っていく。また、犬のフン対策についても、多様な啓発方法によりルールの周知を図っていく。</p> <p>提言 17 「エコ対策の推進が必要」</p> <p>計画書（素案）43 号「麻布地区の身近な自然とのふれあいと学びの場」事業で、子どもの中からエコ対策について学ぶ機会を創出する地域事業「みんなでエコっとプロジェクト」を実施し、エコ対策を機器設置ではな</p>
--	--

くソフト面から実施。クールミストについては、設置主体、設置場所、導入・運転に係る費用負担、導入後の維持管理の問題など、課題が多いことから、その導入の推進を計画に反映できなかった。なお、区は、エコ対策として、省エネルギー機器類等の設置費助成や緑のカーテンの推進、省エネセミナーの開催など、様々な取組を行っていく。

提言 18 「ごみ出しのルールやペットのフンに関するマナーの周知が必要」

計画書（素案）44 頁「地域や区民等の特性に対応した収集・指導」事業で、繁華街などの地域特性、区民等の特性に対応した収集・指導を行っていく。

提言 19 「『みなとタバコルール』の推進が必要」

港区は、指定喫煙場所を除く公共の場所での喫煙を禁止しており、計画書（素案）44 頁、「みなとタバコルールの推進」事業で、タバコを吸う人も吸わない人もお互いに配慮し合うことができる快適な生活環境の確保に向けた取組を進め、条例に罰則規定を盛り込むことは考えていない。より一層のルールの推進と啓発を図るため区職員と巡回啓発員が指導・啓発を強化していく。

提言 20 「『麻布』という名を発信する文化・芸術イベントの創出が必要」

計画書（素案）48 頁「麻布地区における歴史・文化の収集・提供」、49 頁「世代間交流の促進」事業で、イベント等を区、民間事業者等が実施する際に、「麻布」を冠したイベントが開催されるように働きかけを行っていく。

提言 21 「麻布の歴史・文化資源等を活用した地域の魅力向上とまちへの愛着の醸成が必要」

計画書（素案）48 頁「麻布地区における歴史・文化の収集・提供」、49 頁「世代間交流の促進」事業で、麻布地区の魅力や歴史を知ってもらう取組を行っていく。

提言 22 「麻布の歴史・文化、観光に関する情報の拡充が必要」

計画書（素案）48 頁「麻布地区における歴史・文化・芸術資源の活用および継承」、49 頁「観光情報の充実と観光振興の推進事業」で、麻布未来写真館等のパネルを港区公式ホームページで発信、観光情報をまとめた「歴史ガイドブック」の作成、区内文化財を紹介する「港区文化財のしおり」の作成などを実施していく。

提言 23 「外国人と交流できるイベントの周知が必要」

計画書（素案）50 頁「麻布地区における国際交流及び協働の推進」「大使館等との連携による国際交流」事業で、交流機会の創出を図っていく。

提言 24 「地域情報紙の発信方法の検討と拡充が必要」

計画書（素案）49 頁「地域情報の発信力の強化」で、既存の掲示板、広報みなとや総合支所ホームページだけでなく、SNS の活用を検討していく。また、支所に設置予定のデジタルサイネージを活用していく。

提言 25 「新たな地域イベントの検討が必要」

計画書（素案）52 頁「麻布地区におけるコミュニティ活動の活性化」事業

で、麻布地区が実施する地域事業「麻布で“地域のちから”活性化事業」を活用し、区民等との協働による取組を行っていく。

提言 26「地域とのかかわりを持つきっかけが必要」

計画書（素案）52 頁「地域を舞台とした多様な交流の促進」、53 頁「地域間交流の支援」事業で、地域住民が集まる場の提供や地域のことを知る機会を提供していく。

提言 27「地域活動や地域との協働事業の推進が必要」

計画書（素案）51 頁「麻布地区におけるふれあいの場の拡充」、52 頁「麻布地区におけるコミュニティ活動の活性化」「地域コミュニティ活動の場の整備」「地域を舞台とした多様な交流の促進」事業で、麻布地区が実施する地域事業「麻布で“地域のちから”活性化事業」「麻布フェスタ」等を活用し、更なる協働の取組を推進していく。

提言 28「区民、来街者、区が地域の課題を共有し、積極的にかかわりをもつことが必要」

計画書（素案）54 頁「『麻布地区の生活安全と環境を守る協議会』の活動支援」、「繁華街特有の課題に対する生活安全対策の推進」事業で、これまで区民、事業者などと協働で取り組んできた「麻布地区の生活安全と環境を守る協議会」等の活動をより一層推進していく。

提言 29「麻布地区内の福祉・医療情報の一元化が必要」

計画書 59 頁「情報提供の仕組みづくり」事業で、港区医師会等と協働し、「みなと医療ブック」を作成・配布し、区民等へ情報提供を行っていく。また、介護施設については、港区が協力し、民間事業者が発行している「介護サービス事業者ガイドブック」の配布、介護保険事業者説明会、各種研修を通じてケアマネジャーへ必要な情報提供を行っていく。医療機関に関する情報は、医療法に基づき都で集約されホームページ等で公表されているが、みなと保健所にて電話での個別問合せにも対応。また、広報みなとは、平成 26 年 5 月 1 日号からデザイン・掲載内容等をリニューアルし、これからも分かりやすい情報提供の仕組みを検討していく。

提言 30「民生委員・児童委員制度に関する課題の解決策の検討が必要」

計画書（素案）60 頁「多様な活動主体との協働」、61 頁「地域での福祉活動支援」「安全・安心を支え合う地域づくりの推進」事業で、地域で気軽に区民同士が支え合える仕組みやネットワークづくりを検討していく。

提言 31「地域の企業や住民等の参加による地域貢献活動が必要」

計画書（素案）61 頁「事業所等の地域貢献活動の参加促進」事業で、社会福祉協議会と連携し、地域貢献活動を行う企業の協議会である「みなとネット」の活動支援と社会福祉協議会の活動 PR を行っていく。

提言 32「高齢者向けの新たな取組の検討が必要」

計画書（素案）60 頁「多様な活動主体との協働」、61 頁「安全・安心を支え合う地域づくりの推進」事業で、福祉サービス等の相談を受けるひとり

<p>座 長</p>	<p>暮らし高齢者等の見守り推進事業、高齢者相談センターの電話による 24 時間対応の相談受付、社会福祉協議会におけるリバースモーゲージによる福祉資金の貸出等を行っていく。</p> <p>提言 33 「図書館等を活用した拠点整備が必要」</p> <p>計画書（素案）61 ㊦ 「社会変化や地域特性を踏まえたサービスの向上」事業で、外国人居住者の多い麻布地区の特性に応じた資料収集、ICT を活用した取組の推進。図書館内へカフェスペースを設けることは、施設の都合上設置できない。</p> <p>提言 34 「スポーツ活動の支援やスポーツイベントの検討が必要」</p> <p>計画書（素案）61 ㊦ 「総合型地域スポーツ・文化クラブ（スポーカル）の設立及び運営支援」事業で、地域の人々が多様なスポーツを体験できる機会を創出していく。</p> <p>提言 35 「子どもが楽しめるイベントの創出が必要」</p> <p>計画書（素案）53 ㊦ 「地域間交流の支援」事業で、子どもたちに農業体験や伝統文化などを通じた交流イベントを創出していく。</p> <p>提言 36 「地域での子育て環境の拡充が必要」</p> <p>計画書（素案）62 ㊦ 「麻布地区における乳幼児向けおもちゃの普及」、63 ㊦ 「行政と家庭、地域、NPO、大学、企業等との連携」事業で、子育て環境の充実を図っていく。</p> <p>提言 37 「地域の企業との連携による学校教育の充実が必要」</p> <p>計画書（素案）64 ㊦ 「企業や地域人材との協働」事業で、地域の人材、区内の大学、企業の教育力を活用していく。</p> <p>提言 38 「国際教育の推進が必要」</p> <p>計画書（素案）64 ㊦ 「国際理解教育の充実」事業で、外国籍児童と日本人児童が共に学び、共に高めあう機会や場の充実。英語教育は、小学校全校に外国人講師を配置し、「国際化」を全学年で週 2 時間実施し、6 年生の全校代表児童がオーストラリアへの海外派遣研修を実施。</p> <p>提言 39 「まちの魅力を語り伝えるための具体的な検討が必要」</p> <p>計画書（素案）65 ㊦ 「麻布地区における地域の担い手の発掘・養成」、66 ㊦ 「麻布地区の文化資源の活用と旧町名を活用した地域づくりの推進」事業を通してまちの魅力を伝えていく取組を実施していく。</p> <p>提言 40 「まちの魅力をアピールする方法の検討が必要」</p> <p>計画書（素案）48 ㊦ 「麻布地区における歴史・文化の収集・提供」、65 ㊦ 「麻布地区における地域の担い手の発掘・養成」事業で、麻布地区で実施する地域事業「あざぶ達人倶楽部」「麻布未来写真館」を活用し、麻布地区の魅力を広めていく。</p> <p>分科会での提案が、素案としてまとめられた。どのようなことでも構わないので意見をいただきたい。</p>
------------	---

委員 I	<p>提言の反映状況で「既存事業で対応済み」が多い。区がやっていることのロードマップや進捗状況に皆さんが不満を持っているのではないかと感じた。</p> <p>また、2020年のオリンピック・パラリンピックはあるが、2019年のワールドカップラグビーも入れてほしい。世界でも大きなイベントなので、2020年の前には是非入れてほしい。</p>
事務局	<p>会場である秩父宮ラグビー場が赤坂地区ということもあるので、載せていない。</p>
委員 I 事務局 座 長 委員 D	<p>会場が、麻布地区かどうかは関係ないのではないかと。 検討させていただく。</p> <p>現行計画の地域事業とだぶっているが、その点はいかがか。</p> <p>一般的に計画書を立てると、それにかかる予算、具体的アクションが伴うものだが、ほとんどの項目が事業費ゼロ。「既にやっている」という回答がたくさんあるが、やっているとは認識されていないものが提言として出てきているので、それに対して「やっている」という回答は意味がない。「不十分だからもっとやらないといけない」と皆さんが思っていることに対して「十分だ」となってしまうのは質問と回答がマッチしていない。提言に対する解答になってないところにも違和感がある。</p>
	<p>何度も提言されているものもあるが、皆がそれを認識していない理由として、効果が目に見えてない。やっているが意味がないのか、名目だけになってしまっているのか、こちらの思いと違うのか又は報告がない。数値的にも評価できない。</p> <p>本来現状評価をして、それに対する対応、具体的な数値を持って予算を付け替えるとか、収入が増えるのであれば新たな予算をつけるとか、やるであろうという雰囲気醸し出す計画ならいいのだが、ゼロ回答ばかりでどうやってやるのか。</p>
座 長 事務局	<p>区民説明会の際もこの分科会での説明のとおりに行うのか。</p> <p>麻布地区版と分野別の計画書（素案）の説明だけになる。区民参画組織の分科会へは提言をいただいているため、計画書（素案）の説明と提言の反映状況の説明を行っている。</p>
副座長	<p>我々が提言したものに対する回答があまりにも抽象的。対応しているとの回答が多いが、我々の認識の「対応している」と行政の考える「対応している」に非常にギャップがある。対応方法の認識があまりに違う。</p>
座 長 委員 F	<p>具体的な事業についてはいかがか。</p> <p>非常に怒りを感じるのが、コミュニティバスについて。麻布ルートが長いので時間がかかるということで半分に分けられてしまった。芝方面へ行こうと思っても今まで一本で行けていたところが乗り換えないといけなくなった。変更後のルートでは乗り継ぎも悪く、乗り継ぎの待ち時間を含めると1時間以上かかる。提言の反映状況には「利用する人たちの意見も反映、考慮しながら」と書いてあるが、私は区民の要望として聞かれたことはないのだ</p>

	<p>が、区民の要望が本当にとらえられているのか。広尾方面に住んでいる人については区役所には用がないと思われるのか、このルートの決め方は港区役所と麻布支所の人たちが交流するときに1番いいやり方でやっているのかなと非常にひがんでいる。このルートを考え直してほしいし、3本のうち1本は（芝方面への）直通を作してほしい。</p>
座長	<p>ちいばすのルート等については、常に問題になっている。麻布はちいばす過疎地帯がある。ものすごく時間がかかる地域がある。</p>
事務局	<p>ルートの改善、利用者の意見、運行時間、時間通りに来ないなど、できるだけ多くの要望を取り入れるよう、学識者、区民代表で公共交通会議を他の路線との競合回避や採算性などバランスを考えながら実施している。3本のうち1本は（芝方面への）直通を作してほしいという意見は担当課に報告する。</p>
委員Q	<p>タバコルールについて、私は嫌煙家なので、愛煙家の方には申し訳ないが、罰則化（千代田区のように）を提案した。しかし、港区としてはさまざまな状況を勘案し、罰則までは設けないということだった。何か合理的な判断があるのだろうかということではかたがない。</p> <p>（計画書の素案）P53の交流事業についてはこの分科会ではなく別のところからアクションがあって提言されたと思う。いわゆる自治体の行う姉妹都市のようなものの規模の小さいものだと思うが、他の自治体ではなく、なぜ山形県舟形町かということの説明しないといけない。今後、麻布地区として姉妹都市（地区）のようなものを全国に対して広げていく気があるのかどうか、説明不足。なぜ山形県舟形町なのか理由があるならお聞きしたい。</p>
事務局	<p>元々東麻布の飯倉小学校（現在廃校）で児童同士の交流があり、引き続き廃校になった後も小さいながら東麻布の地区の皆さんとの交流が続いていた。先日の東麻布のお祭り「かかし祭り」にも山形県船形町の方が来てくれた。地域団体との交流事業、という形で話があったので区としてバックアップしようとなった。コミュニティの活性化、児童同士の交流による健全育成という形で推進できないかということで計画化した。</p>
委員Q	<p>歴史的背景を説明しないと、唐突に出てきた感じがある。知っている人はいいが、大部分の区民は知らないと思う。これまでの経緯が分からないとよくない。姉妹都市のようなものを設定するのであれば、いろんなところがやりたいと言ってくるのではないか。</p>
副座長	<p>誰が決定をしているのか。プロセスがよく分からない。「お話があった」ということは、お話があれば提携できるのか。基準があるのか。誰か声の大きい人が声を上げればやるというふうに聞こえる。これは違和感がある。なぜこの事業が入ってきたのか。</p>
事務局	<p>歴史的背景というか、これまでどれだけ地域との交流があったか。麻布地区で言うとたまたま山形県舟形町との交流があったのでそれをサポートしようということで計画に載せている。</p>
副座長	<p>「載せた次第」というのはだれが決定しているのか。初めて聞いたときに</p>

	<p>違和感があって、分科会で1年かけて話して、いきなり「決まりました」と言われて「はい、そうですか」と言っているのかと思う。これだけ議論して決まらないことが沢山あるのに、誰かが何か言ったから決まると言うのはおかしい。それが港区の体質なのか、誰か議員が動いたのか分からないが、知りたい。</p>
委員M	<p>本村小学校は青森県の野辺地と友好関係があり、毎年児童が野辺地から来たり、本村小学校からも行ったりして交流している。この話でいくと、本村小の校長が「うちも」と言えばそうなるのか。そこはどうなのか。東麻布の場合、商店会の幹部の一人が山形県舟形町出身で、個人的に交流を強めて、お子さんが飯倉小の小学生のときに交換会をしましょうとボランティアで始めたのが今も続いている。飯倉小がない中で今は東麻布の限界で行きたい児童を募集してやっている。こういう地域交流をやるのであれば、麻布地区内の小・中学校の中にスポットを当てて、そこからどこに行くかを決めた方が区民は納得すると思う。ずいぶん唐突だなと思った。予算もついている。</p>
副座長	<p>誰かが言っているんですよ、1,500万円予算がつくのであれば。もし誰か商店会の人がその出身で、「俺がやった」なんて言って、予算がついて、決まるプロセスも決まらなくて、承認プロセスもなく、誰からも区民からも承認をもらわないで決まるとしたら、内々で商店会の中でお金が動くということが事実だとしたら、皆さんの税金がそういう風に使われるのかと、すごく疑問に思った。これはちゃんとしないとイケない。</p>
事務局	<p>今話があった山形県舟形町出身の方が東麻布にいるということは初めて聞く内容で、(事前に把握しておらず)大変申し訳なかった。本村小学校のように既存の学校で交流している自治体はあると思うが、飯倉小学校は廃校になり、東麻布地区に基盤がない中で、サポートするために事業化している。</p>
副座長 事務局 座長	<p>誰が決裁をするのか。 計画書自体は支所長が決める。 かなり大きな疑問ですので、今ここで答えを出すというわけではなく、大切な問題なので検討してもらい、改めて事業の説明をしてもらう。</p>
事務局	<p>千葉県では学校の農業実習をやっている、都内の学校とも提携しているが、港区はどうなのか。</p>
事務局 委員Q	<p>各学校長の判断に任せている。 順番としては姉妹都市の条例等を作ってから、どことやるという形をとらなければいけない。どこと交流するかが決まっているというのは手順が違うと思う。</p>
委員H	<p>若干皆さんと意見が違うのだが、プロセスの正しさは確かに重要だと思うが、民間でビジネスをしている感覚からするとそれよりも圧倒的に大事なものは結果だと思う。こちらの計画には色々あるが結果をどう測定するのか、何一つ分からないというのが率直な印象。例えば広報みなどで定期的に区民の満足度調査を実施すると不満な人が出てくるので、傾向値として上がってい</p>

	<p>るのか下がっているのかが分かる。ちいばすのルートが変更されるのであれば、乗車率はどうなっているのか、有効的に活用できたのかどうか。図書館の利用率はどうなのか、待機児童等。区民の代表的な満足度につながる指標について定期的に計測をして広報みなどで出していく。それが良くなっているればプロセスはともかく全体的に良くなっていると思うし、逆に下がっているのであればそれは不要なのかもしれない。</p> <p>問題的な施策もあるが、声が大きくな人がいて、やってみたけれど効果が見えないのであればやめてお金を取っておけばいい。</p> <p>全部とは言わないが、力を入れてやっていく施策に関してはどういったかたちで概算の測定をして共有し評価していくか。効果測定をして進めていってはどうか。次に作るときの指標になる。</p>
座長	<p>ちいばすがあって路線があるのになぜ乗らないか、台東区には「東西めぐりん」というバスがあるが、いつも満員である。売り込みがいい。観光客も100円で乗せている。もうひとつ工夫があるといいのではないか。区側も検討してほしい。</p>
委員E	<p>皆さんと似ている意見なのだが追加で。提言の内容によってはこちらの意図したこととずれて回答されている。「麻布の名を冠したイベント」について、反映しているになっているが、区側は地域住民を対象としたローカルなレベルでのイベントを取り上げて「既存事業で対応済み」になっているのではないか。そうではなく、分科会で話し合ったのは、もっと外から人の来るような目玉になる大きなイベントを作ったらどうかという話だった。この回答を見ていると違うのではないかと思う。</p> <p>ドッグランについても、対応済みだが、芝浦にあるとなっているが、基本ドッグランは徒歩でいけないと意味がない。車で行くにしても駐車場が整備されていない。そもそも麻布の中で話しているのに芝浦にあるから対応済みはおかしい。</p> <p>オリンピックに向けても目玉がない。6年間の目玉になるようなインパクトのある事業がないのが残念。</p>
座長	<p>前期・後期はあるが、たしかに目玉がない、ここがスタートなのに。オリンピックにからめてのイベントなど、区としてはこれを作り上げていくときにそういう討議はあったのか。どうなのか。</p>
副座長	<p>ないと思う。調べに港区役所へ行って担当部署とも話をしたが、我々が提言した「麻布マラソン」も話し合いもされていないし、それをやろうという動きもなかった。提言書が出てから協議されるのかと思っていたが、検討されていない。</p>
事務局	<p>支所としてできることをまとめているのでこういう形になっているが、確かにオリンピックに絡めるとなると弱い部分はある。</p>
座長	<p>オリンピックに絡めると、ボランティアの宿泊、ホームステイによる海外からの来客との交流、ホテルが不足するようなことも言われているが、支所</p>

<p>事務局 座長 事務局 委員L</p>	<p>としては考えてないのか。 支所としては考えていない。本庁で取り扱う問題と考えている。 意見として本庁に対して言えないのか。 一応提言書は渡して、担当部署で考えてと伝えてある。 六本木西公園のブランコが2つあるはずなのに1つしかない。こういうのも設備の維持管理に含まれると思う。公園の維持管理の反映状況について既存事業で対応になっているが、そのままの状況なのに対応していると言えるのか。</p>
<p>事務局 委員L</p>	<p>担当課に確認させていただく。</p>
<p>事務局 委員L</p>	<p>このような状況で公園の維持管理とあるが、どこまで対応してくれるのか。 六本木西公園の記述はどこかに入っているのか。</p>
<p>委員L</p>	<p>そういうことではなく、(ブランコの話は)公園の芝生の張り替え、トイレの改修等の維持管理に含まれるのではないかと思うのだが。</p>
<p>副座長</p>	<p>区でやっている公園の維持管理と民間のやっているところとあまりにも管理が違う。また区も地区ごとに対応が違う。芝の張り方1つとってみても管理が良くないから根付かない。高輪地区で聞いたところでは、港区としてはガイドラインもなく公園ごとにやり方を変えているという対応。</p>
<p>委員L</p>	<p>芝に関してはそうかもしれないが、ブランコがないというのはあまりにも。本来あるべきものなのに。吊り下げの金具はあるのにブランコがない。</p>
<p>事務局</p>	<p>計画とは別に、早急に対応すべきご意見ですので、担当課に話を伝え、対応する。</p>
<p>委員D</p>	<p>結局何かをやる、というのはお金を使うことではなく、実現できているかどうかである。芝を張ったらずっとそこにあることが重要。あるかないかがやったかやらないかである。 収支とか資産を重要視する企業と、お役所のようにお金は入ってくるから後はどう使うかという一方通行の計画とで作り方は違うということも理解できるが、その作り方が違うというところに皆さん納得いかなくていろんな提言が出てくる。さらに提言に対する回答が、かなりの部分「既存事業で対応済み」になっているが、実際提言に対する回答というのはやるかやらないかどっちかしかないと思う。やってるとあるが、やっていないと思うからみんな提言している。こういう形で自分達の提言がお役所の中で処理されていることは非常に不満で、自分の出した意見がねじ曲げられて違う報告書としてあげられている。いろいろ読むと、「役所はやっている。その提言は違うのではないか。」ということになっている。理解していただけてないか、無視をされているか。提言を受けて計画を作るという観点において、プロセス以前の問題として、処理の仕方がおかしい。対応しているのであれば、本来予算を書いて対応済みとすべき。それが1個もないというのは、反映状況と計画書がリンクしていない。根本的に反映状況の資料は作り直すべき。計画については、予算をつけられないようなものは削ったほうが良い。具体的にやると</p>

<p>座長</p>	<p>見込みが立っている、予算のつけられる見込みの立っているものだけを掲載すればいい。多大な時間をかけて作られたとは思いますが、あまりにも中身が乏しいという印象。普通の会社だったらこのような計画は却下される。何をベースに計画を立てているのだというふうに普通の会社だったら言われる。普通の会社だったら倒産する。</p> <p>我々の考えている土俵と区の考えている土俵が違うのではないか。両方が話し合って、それをもとに検討してほしい。</p>
<p>委員N</p>	<p>皆さんがご指摘されているように「既存事業で対応済み」というのは変だなと思った。</p> <p>それから再開発についても区民からの意見収集や合意形成がなされていないのに、「既存事業で対応済み」ということになっている。新しいマンションが建設され、ごみの置き場がなく生ごみを路上に置いている。ごみ置き場の計画がないものがなぜ認められているのか。区としてきちんと指導したのか、検査しているはずだが、どうして通したのか、疑問だが「対応済み」になっている。実に納得のいかないことだ。近所に迷惑をかけてしまうものを許してしまうのはどういうことなのか。夏になったら臭くてマンションの住民からも苦情が出てくると思うが、区として指導できなかったのか。</p> <p>あとは東京オリンピックに対して広報活動がもっと入っていればよかったと思う。</p>
<p>委員J</p>	<p>皆さんの意見を聞いて、全てもっともなことである。皆さんが時間を割いて出した意見のとりまとめ方が少し欠けている。麻布を良くするためにどういことをやっていくかのまとめがない。その辺を皆さんに協議してほしい。</p>
<p>委員A</p>	<p>東麻布に住んでいるが、少しでもまちのためになればという思いとこども達の未来、楽しく住めるまちになればという思いでここまで出席させていただいた。その気持ちがあればあるほど、こみ上げてくる怒りがある。具体的に言うときりがないが、もう少しなんとかならないのか。突破口はないのか、こういう形になってしまい、がっかりしている。</p>
<p>委員B</p>	<p>皆さんの言うことがもっとも。長い間時間を割いて話し合った結果がこれというのはさびしい。</p>
<p>委員K</p>	<p>提言と反映状況の部分について、食い違いが多々あるのでもう一度検討してほしい。</p>
<p>委員R</p>	<p>「提言3」再開発の中で高齢者が安心して住める借り上げマンションができないかなと申し上げてきた。対応済みとなっているが、私どもの再開発のところではまだなのだが、他の所では話が通っているのか、お聞きしたい。また、景観法を麻布地区としても作ってほしい。月食のときも東京タワーがきれいだったので、東京タワーが沈んでしまうような建物はいかななものか。それを保つようにしてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>「既存事業で対応済み」はいろいろなニュアンスを含んでしまっている。区立住宅や高齢者向け借り上げ住宅は現在あるが、「対応済み」で終わるので</p>

	<p>はなく、今後も増やしていく。ソフト面についてもサービス付き高齢者住宅など、安否確認や相談業務のある高齢者向けのサービス付きの住宅を整えていきたい。</p> <p>建物については個別の方が好みによって建てる場合が多いので、細かい規定はできない。高さについては制限できるし、外壁の色なども周りに調和したものになるようある程度要請することはできる。それ以上突っ込んだ要請、例えば建物全体を同じ統一感で作るなど、大規模な開発のときに業者に要請することはできても、区からの指導というところまではいかない。</p>
座長	<p>新しい建物と古い建物のバランスをどうしていくのかという話かと思う。外国人にとって何が魅力かという高い建物ではなく古い建物である。そのバランスをどうとっていくか。</p>
委員G	<p>(座長から振られたが) とくになし。</p>
委員P	<p>「既存事業で対応済み」という部分の記述がどうにかならないのか。どのように対応されているかの記述がない。</p>
委員D	<p>皆さんの認識と、計画を立てられた各担当課の認識のズレを各担当課で把握できないのであれば、第3者か、我々がほんとに反映されたかどうか、〇×をつければ良いと思う。計画の素案をいまさら変えることもできないので、我々が1年かけて作業してきたものについて公平な評価はされていない。提言に対する反映状況について評価をしていくべきかと思う。普通の人が提言の内容と反映状況をマッチングしてこの資料のように「既存事業で対応済み」だと理解できる人は誰もいないと思う。別に専門家や我々ではなくても全然対応していないことは分かると思う。提言に対して対応している事業が1個もないと思う。それを我々がやるか第3者がやるかだと思う。そういう結果に対する評価をやらないと、もちろん先程から意見が出ているように計画を立てて、その計画が結果的にどうなったかという評価もあると思うが、それ以前に提言に対してどれだけ計画に反映されたかを整理したほうがよい。概要を見ると40の提言が数十の事業に反映されているように見えるが、今皆さんの意見では反映された事業数はゼロになる。少なくともここでの評価は担当されたそれぞれの課の方々にしっかり伝えられるべき。ここだけの場でたくさん苦情が出たで終わってしまうと、たぶん来年も再来年も同じことを繰り返して、何もよくなる方向に行くとは思えない。よくなる方向に評価していくことが重要。</p>
委員H	<p>この提言40項目について、反映された、一部反映された、反映できていないが内容(難しさ)は理解している、提言内容を反映できていないなど評価してみる。ここにいる20名と関与した区の方々にそれぞれ評価してみるといい。相当なギャップが出ると思う。次にどうギャップを埋めていくかになる。このメンバーと計画の素案を作った区の方々にそれぞれ評価したらいいと思う。ギャップがあるならよりよい提言内容に変えていこうということになると思うので是非やったほうが良いと思う。次回違うメンバーでやるなら</p>

	<p>よりよくギャップが埋まるように運営方法も変えなければという意識にもつながる。</p>
委員F	<p>区有地の有効活用の部分「既存事業で対応済み」になっているが、反映状況では「区では文化芸術ホールの整備を予定している。」となっている。このような対応をされると騙されているなどと思う。私たちのさんざん言っていることはただのガス抜きだったのではないかという嫌な感じが残る。</p>
座長	<p>意見交換が不足している。それに対してどうするのか。これでいいのかという意見の連続でなかなか満足いくものはないと思うが、区側も今までも真剣に受け止めてこれが出てきたと思うが、今日の意見を踏まえてよりよいものにしていかなければならない。</p> <p>現象が多面的であり、それがまさにこの会議に出ている。そういう中で行政がどう仕切っていただくか、ということだと思う。</p>
委員O	<p>だいたい、皆さんがいていたことと同じ。</p> <p>(昨年度の)一番最初に配布された資料の中に数字の実績が入っている事業があったが、一般の企業だったらやっていると言えない事業ばかり。掃除か何かの事業だったが、数値があまりに少なくて実施回数プラス1人ぐらゐの実績で、やっているうちに入らない。でも、「やってる」と丸がされて普通の区民には知らされない。このような事業が多々あるのではないか。</p> <p>山形(舟形町)の交流についてはどうなるのか。分科会の中では話し合っていない。</p>
事務局	<p>このままいくことになる。</p>
副座長	<p>もう決まってしまうということなのか。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおりなぜここなのかという説明は必要だと思うのでそれは別の機会に説明させていただきたい。</p>
委員A	<p>山形県舟形町の件について。個人名まで知っているが、このグループについて、自分たちの町会は一切協力しない、関わらないようにしている。この予算がついていることもおかしい。これほどの予算のことはやってない。こういうものが通っていき、他の私達の提言に関する予算がつかない。おかしいものはおかしいと、表に出るような形をとらないといけない。納得されたような形で出されるのはひどすぎる。</p>
委員Q	<p>これは分科会の側の責任もある。官民公私という軸で区切ったときに、公共意識を持って提案しなければならないし、決定しなければならない。決める区のほうも、今これが公共事業として必要だという自信の元に決定してもらいたい。誰が公のやるべきことだと思決定したのかを知りたい。区として麻布地区の公共政策として納得のいく説明がほしい。ふるいにかける作業を透明化したほうがいいと思う。</p>
委員D	<p>会議を開いて何も決まらないのは会議をやっている意味がない。これだけ意見が出たからには何か決まらないとおかしい。かつ決まったことが適切なところに報告されて、次のときに反省、あるいはやってよかったというかた</p>

	<p>ちでフィードバックされていくべき。</p> <p>「既存事業で対応済み」の部分について誰もチェックしていない。もしチェックしているとすればとんでもないチェックだと思うが、提言と報告のマッチングをさせての評価ができていない。今まで我々のやっていた作業はなんら評価を得ずに過ごされてしまう。これはお互い信頼し合って長い時間をかけてプロセスを進めていこうとする側からしたら、信頼関係において非常に大きな問題である。間違ってもらいたいけないのだが、皆さんは自分たちの提言が入ってないと言っているわけではない。</p> <p>提言している内容について、とりあえずやっているという回答がされていることに不満がある。必要ないものは必要ないと言ってもらってかまわない。みんな全て提言したものが予算化されて実現するとは思っていない。不要なものや違うものがあるべき。</p> <p>これだけ打合せをしても何も決まらないということも次のステップの問題で、みんな問題があると思っている。これだけ時間をかけて議論をした。はい、終わり。これは何なのか。「信頼関係を醸成しつつ民間と公で協力していきましょう」という総論でまとめられても困る。信頼関係を壊すようなことをこの1時間かけてやってきているようにしか見えない。結論が議論の内容とあまりにも違って、その反省が将来に生かされる芽がまったく見えない。次に良くなっていくように何か考えてほしい。そこを座長に調整をお願いしているところなので、「頑張りましょう」で終わってしまうとみなさんがっかり。やはりここは何かを決めて前に進むのが重要だと思う。</p>
座長	<p>これをお預けいただき、今日の意見を集約して、もう一度麻布支所と次はどうするか。また、皆さんに集まっただき、それなりのものを出したい。</p>
委員E	<p>区の方の意見も聞きたい。今のところ誰も納得していないので、意見交換すると言っても今のところ予定もないので。今のD委員の意見を受けてどう思われているのか。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいた点も多くあるため、もう一度意見交換する場を設ける。その他に区民意見募集というかたちでパブリックコメントをいただく予定。</p> <p>また、ご指摘いただいた提言反映状況の資料の作り方、説明が不足している部分が多々あった。例えば、提言16のドッグランについて、「既存事業で対応済み」となっているが、今後やらないという意味では決してなく、要望があれば検討していくということなので、「既存事業で対応済み」という表現自体に問題があるのかと考えている。改めて再検討していければという状況。</p>
副座長	<p>ドッグランについて言うなら、1年かけて麻布地区に欲しいということで提言してきた。事務局の説明で、要望があれば、ご依頼があれば検討するというが、要望を出してきた。それが反映されていない、検討がされているのかさえ分からないということを皆さんが言っている。何を誰が検討しているのか。部署は分かったが、検討されているのかどうかは分からない。</p>
委員E	<p>誰が要望を出しているのか、私たちが署名を集めて要望を出さなければ検</p>

副座長 委員K	<p>討されないということか。</p> <p>分科会として提言という要望を出している。</p> <p>これまで時間をかけて出してきた提言がなかなか反映されない現状に、突然別のところから話が合った山形県舟形町の事業は予算化される。理解できない。</p>
副座長	<p>これは別の話になってくるかもしれないが、我々が提言を出しているわけだから、分科会の責任にもなりかねない。突然 1,500 万円の予算がついて、「いいですか」と説明された。誰も何も話し合っていないのに。「いいか」ではなく、実際にはこの事業はもう決まっているってことなので。</p>
委員O	<p>ここにいる人だけで多数決を取っても反対の人が多と思う。それでも通すのか。</p>
事務局	<p>分科会以外のところからも要望は出ているので、その辺を勘案して区として判断している。</p>
委員F	<p>個別に出すのではなく、地域との交流コミュニティを作っていこうとしているという形にはできないのか。予算をつけないで他県との交流を考えていますというふうにはできないか。地域事業としてではなく、どうにかならないのか。</p>
副座長	<p>次回説明会をやってもらい、担当課の当事者に出てきていただいて説明してもらってはどうか。</p>
委員F	<p>そうしていただかないと納得がいかない。</p>
委員D	<p>何らかのアクションを起こさないと意味がない。ここで事務局が調整していくのが役割だと思うが、提言内容と計画のずれを修正していくアクションを立てていただいて、ただ聞いてきたことを伝えるのではなく、具体的な事務局としてのアクションを考え、実行しないといけない。</p>
委員N	<p>世界の先進国では市民が監査していく社会が主流。第3者か区民による監査をするシステムを作っていくのもいいのではないか。</p>
座長	<p>本日出された意見についてはこちらにお預けいただいて、事務局とも検討し、皆様にご連絡する。長い時間ご討議いただきありがとうございます。事務局から何か連絡はありますか。</p>
事務局	<p>3 その他</p> <p>今後の予定については、「参考資料2」を配布してあるので、読んでいただくということによろしいか。次回の日程等は座長・副座長と検討させていただく。</p>